

公募テーマ：多様な個性・才能・創造性を開花させ育むサードプレイス



# グローバルな社会課題を探究する 全国の中高校生向けサードプレイスの創出 成果報告書

公開版

事業者名：NPO法人クロスフィールズ

提出日：2023/2/24

## 担当者情報

- 所属・役職：プロジェクトマネージャー
- 氏名(フリガナ)：花井一太郎 (ハナイイチタロウ)
- メールアドレス：ichitaro.hanai@crossfields.jp
- 電話番号：080-4214-0473

# テーマE：グローバルな社会課題を探究する全国の中高校生向けサードプレイスの創出 (NPO法人クロスフィールズ)

## 実証背景と内容

### 背景

- コロナ禍の移動制限に伴う、子どもたちの広い視野を獲得する機会 (留学機会等) の減少
- 世界の課題を探究し、自分事として課題解決に向けて行動するグローバルリーダー育成の遅れ



### 取組内容

- ① **サードプレイスの創出と、その効果測定**
  - 対象者：全国の高校1～3年生 (27名)
  - 育成する人材像：グローバルな社会課題を自分事として捉え、自ら行動していく人材
  - プログラム内容：オンラインを主体とした4つのセッションから構成される約2ヶ月間の探求プログラム
  - 期間：2022年12月17日～2023年2月4日
- ② **自走に向けたプラン具体化と示唆出し**
  - 当初プラン：共感してくれる寄付者の獲得
  - 自走に向けた実施事項：有識者等へのヒアリング
- ③ **普及に向けたプラン具体化と示唆出し**
  - 外部発信・公教育との接続強化を通じた社会への普及
  - 探究(体験)格差の課題への対応による受益者規模増

## 実証成果

### ① サードプレイスの創出と、その効果測定

- オンライン主体でも参加者が安心して学び、高め合えるコミュニティの形成ができた
- 効果測定の結果、本プログラムが参加者の「社会課題の自分事化」や「行動への意思の高まり」に効果があったと実証された

### ② 自走に向けたプラン具体化と示唆出し

- 寄付、補助金、一部受益者負担などいくつかの資金を組み合わせることで、持続的な自走を検討する。
- 寄付を募る対象は篤志家からの個人寄付や法人寄付を検討する
- 参加者の将来のキャリア候補として、国際協力分野における関係機関への接続可能性は引き続き模索する

### ③ 普及に向けたプラン具体化と示唆出し

- 外部発信 (最終発表会の公開等) や公教育との接続をより強化していくことで、本プログラムでの学びを社会に広く普及する。また探究(体験)格差の課題に対応するため、参加ハードルを下げる仕組み構築や受益者規模の拡大などを検討する

# 目次

1. 背景・目的
2. プログラムの実施概要
  1. 実施内容
  2. 実施スケジュール
  3. 実施実績
  4. (参考) アンケート結果
3. プログラムの実証成果
  1. 検証項目ごとの検証結果
  2. 実証プログラムから得た探究学習の学びの最大化に向けた要素
4. 自走・普及に向けたプランや、示唆

# 1. 創出・改善したサードプレイスの背景・目的

## 背景

- 「グローバルな社会課題を解決する意欲」の重要性は今年5月に発表された経済産業省「未来人材ビジョン」のなかでも論じられている
- SDGsが注目されたことで社会課題の存在を知る学生は増えてはいるものの一方で、特に海外の課題を「自分事」として当事者意識を持って捉える機会は減少
- この背景にはコロナ禍で留学などの機会が減ったことも影響しており、グローバルな社会課題に触れる機会は激減。特に地方では地域課題に目を向ける傾向が強く、この傾向は顕著である
- 結果的に、グローバルな社会課題の解決を志す次世代リーダー層は目に見えて減少。グローバルな社会課題の解決促進のためにも、また国際社会における日本のプレゼンス低下をくいとめるためにも、海外の社会課題に目を向ける機会を学生に提供することが急務

## 目的

**グローバルな社会課題に目を向け、自分事化し、その解決を志す進路**を選択肢に入れながら、それぞれの「個性」「才能」「創造性」を開花させられる若者を増やす

- ① グローバルな社会課題に対して関心を持ち、自分事として捉えるための機会を都市部・地方関係なく、広く提供する
- ② グローバルに活躍する起業家/実務家との対話の機会を提供し、新たな進路の選択肢を提示する
- ③ グローバルな社会課題の解決を志すキャリアの探究のために、互いに情報交換をしたり相談しあえる高校生たちのコミュニティを立ち上げる

## 2-1. 実施内容

- **プログラム実施期間**：2022年12月17日～2023年2月4日
- **対象者**：全国の高校1～3年生（27名）
- **募集・選抜方法**：公募による全国からの募集、学歴等による応募資格の設定はなし
- **参加対象とする人材像イメージ**：
  - 世界の問題になんとか興味があるが、関心を深める場が無かったり、家庭や学校で話せる仲間がいない
  - 社会課題に関心はあるが、具体的な進路やキャリアまで考えられていない
  - 自分の進路やキャリアについて何も考えられておらず、何かしら考えるきっかけを得たい

## 2-1. 実施内容

- **プログラム実施内容：**

以下の4つの要素を組み合わせた約2ヶ月間のハイブリッドプログラム

A) インスピレーションセッション（2回）【オンライン開催】：2022年12月17日, 24日

目的：社会課題についての講義や疑似体験プログラムなどで刺激を受ける。

B) フィールドセッション（2日間）【リアル/オンライン開催（両方参加/いずれか参加の選択制）】

目的：社会課題の現場を体感するフィールドセッション

オンライン：2022年12月27日-28日 … カンボジアの女性自立支援を行う団体とオンラインで接続

リアル：2023年1月7日-8日 … 福島県の被災地の復興・次世代人材育成を担う団体を訪問

C) キャリアセッション（2回）【リアル/オンライン開催】：2023年1月21日, 2月4日

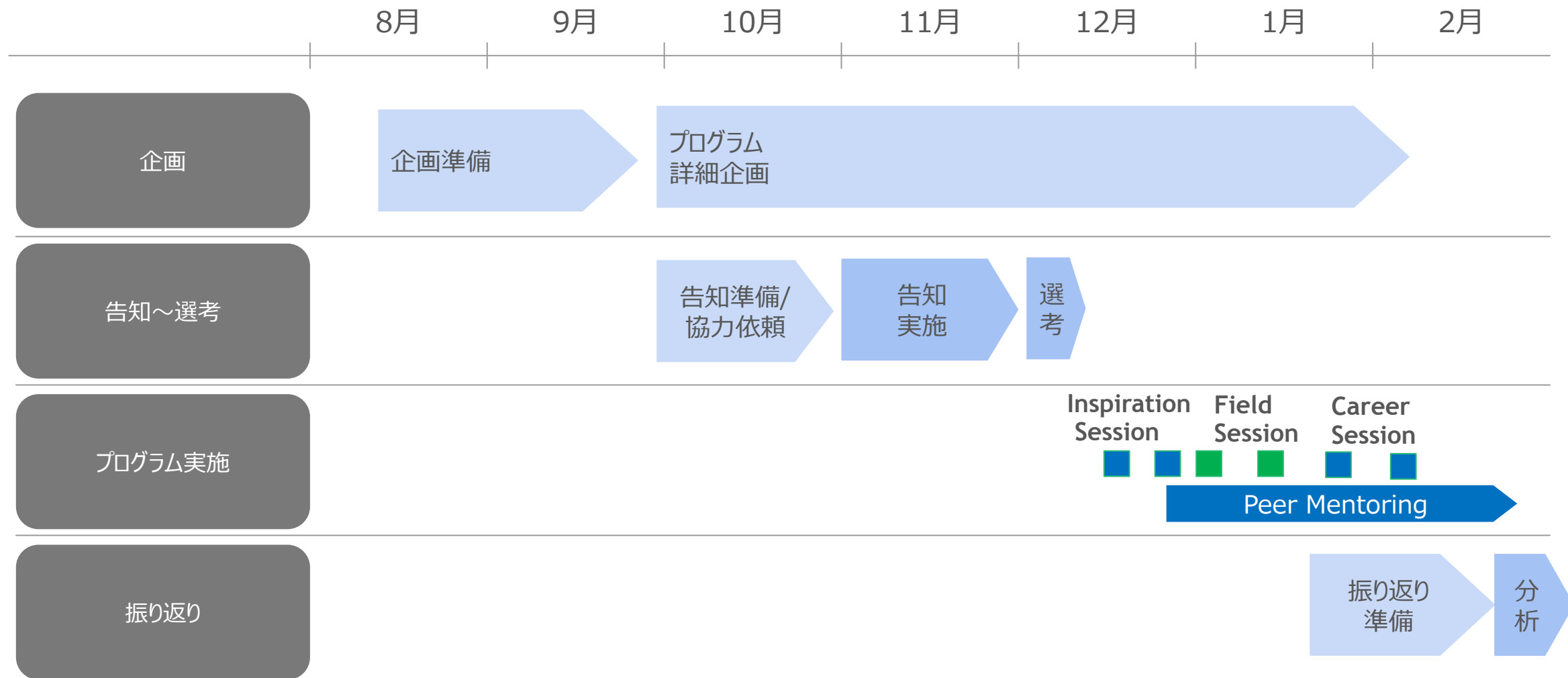
目的：グローバルな社会課題に挑むリーダーやロールモデルに、彼ら/彼女らとの対話から刺激を受け、最終セッションで今後のキャリアの展望を発表する。

D) ピアメンタリングセッション（全期間通して3回）【オンライン開催】

目的：クロスフィールズのメンターと参加者3-4名での対話を計3回実施。

関係者間の関係性構築と学び・内省を深めるとともに、最終発表に向けたメンタリングを行う。

## 2-2. 実施スケジュール



## 2-3. 実施実績

- 告知用ウェブサイト（一部ページ抜粋） / チラシ制作・開講記念イベントの実施

Field session  
Inspiration session  
Career session

全国の高校1~3年生 募集中!!  
（12月5日~20日）

グローバルキャリア探究キャンパス  
**CROSS BRIDGE**  
[クロス・ブリッジ]

全国の高校1~3年生対象  
参加費無料（交通費別途あり）  
12月~2月にオンラインで開催  
3つのセッション（2日5時/土曜午後開催）  
経験豊富な伴走者

仲間とともに  
世界とつながり  
将来への  
橋をかける2ヶ月!  
いま始まる!

グローバルな社会課題を探求し、  
将来のキャリアについて考える  
短期プログラム開講!

最近よく見かける世界各地のニュース。  
ウクライナ侵襲、増え続けるゴミの問題、世界の異常気象、  
競争による難民問題... などでこんな疑問が起きているんだろう。  
自分たちとは無関係? 何かできることはあるのかな...

こうした疑問が湧いたことはありませんか?  
世界で起きていることに関心はあるし、解決に向けた行動をしたいけれど、  
何から始めれば良いかわからない...

そんな高校生の方々の探究心や悩みと向き合い、  
社会課題への理解を深めながら、将来の進路について仲間たちと共に考える

## FEATURES

CROSS BRIDGEの特徴

- 全国どこからでも参加OK**  
全編オンライン開催（※現地訪問型のフィールドセッションを除く）のため、日本全国どこからでも\*世界の社会課題の現場\*とつながることができます。
- グローバルに活躍する先輩との出会い**  
世界を舞台に活躍する素晴らしい先輩たちと出会い、自分にとってのロールモデルを見つけることができます。
- 同じ想いを持つ仲間との出会い**  
共通の関心や悩みを持つ全国からの参加者とながり、ともに切磋琢磨する中で一生涯の仲間ができます。
- 経験豊富なメンターによる伴走**  
社会課題解決とビジネスの世界での経験を持つメンターが、プログラム期間中を通じて参加者の皆さんに伴走します。

CROSS BRIDGEに申し込む



## 2-3. 実施実績

- **応募総数**
  - 54名（応募経路：「学校の先生からの紹介」が21名と全体の40%弱を占めた）
- **フィールドセッションの参加分布：**
  - オンラインのみの参加：7名
  - リアルのみの参加：9名
  - 両方参加：11名
- **ゲスト講師：**
  - インスピレーションセッション：NPO法人クロスフィールズ 代表 小沼大地氏
  - オンライン型フィールドセッション：NPO法人SALASUSU 代表 青木健太氏 他スタッフ・インターン生2名
  - 現地訪問型フィールドセッション：一般社団法人あすびと福島 代表 半谷栄寿氏 他スタッフ・インターン生3名
  - キャリアセッション#1：NPO法人コペルニク CEO 中村俊裕氏
  - キャリアセッション#2：NPO法人WELgee 代表 渡辺カンコロンゴ清花氏、国際協力機構 好井優衣氏

## 2-3. 実施実績

インスピレーションセッションの様子（12/24実施）

### 社会起業家インタビュー



子ども兵の課題に取り組む社会起業家に、  
改めて「子ども兵」について聞きましょう。



## 2-3. 実施実績

### 現地訪問型フィールドセッションの様子（1/7-8実施）





## 2-3. 実施実績

### キャリアセッション#2の様子（2/4実施）



### キャリアセッションでの最終発表資料（抜粋）

#### キャリアイメージ

大学で、貧困地域の子どもたちに、

クラシックバレエ × 情操教育

子どもたちと  
一つの舞台を  
作る

バレエと現地  
の文化と融合  
する



想像力

創造力

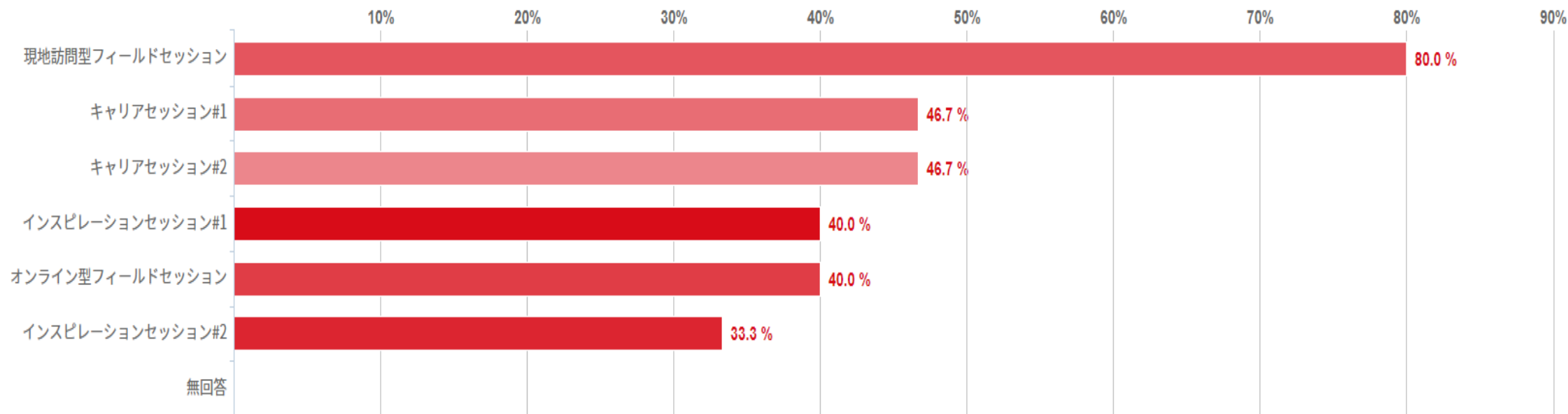
表現力

追求力

潜在能力を引き出す

## 2-4. (参考) 参加者アンケート結果①

【特に学びや気付きにつながったセッション】



### <参加者アンケート抜粋>

インスピレーションセッション#2：こども兵について知り、格差についてより考えるきっかけになった

オンライン型FS：オンラインで実際にカンボジアの現場とつながることができたから

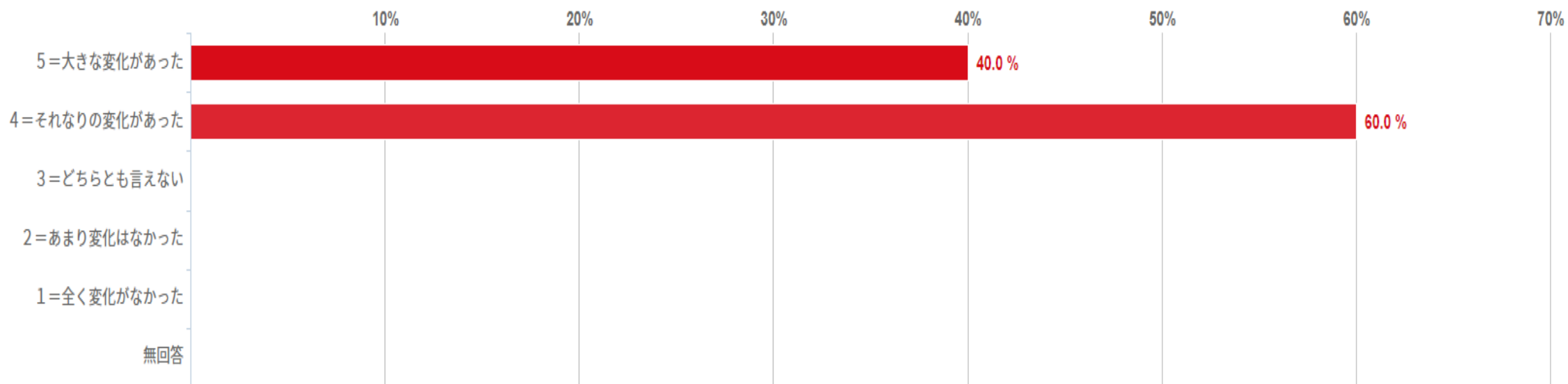
現地訪問型FS：五感でさまざまなことを感じられた現地セッションは特に忘れられません

キャリアセッション # 1：ゲストの話が自分のダメな部分を痛感させられる気付きを得た

キャリアセッション # 2：自分のこれからのキャリアを発表して気持ちの整理がつき今後へのモチベーションが高まった

## 2-4. (参考) 参加者アンケート結果②

【プログラムに参加したことがきっかけとなり、  
自分の進路やキャリアについての考え方に変化があったか？】

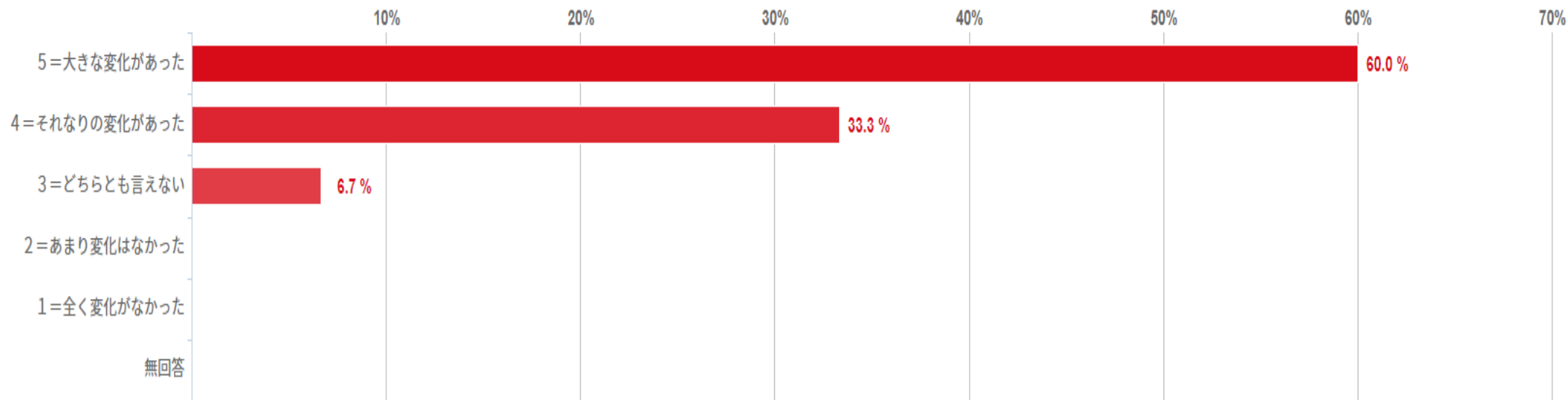


### <参加者アンケート抜粋>

- ・以前は自分が楽しく働ければ良いと思っていたが、社会のために活躍している方の話を聞いて、自分もそうありたいと思うようになった
- ・1人でやることは難しくても、同じような意識を持った人たちと協力することで社会に価値を生み出せるという自信を持てた
- ・プログラムがきっかけとなり、社会課題に広く取り組める学部への進学を選択した

## 2-4. (参考) 参加者アンケート結果③

【プログラムに参加したことがきっかけとなり、グローバルな社会課題についての考え方に変化はあったか？  
(※グローバルな社会課題は国内の社会課題を含む)】

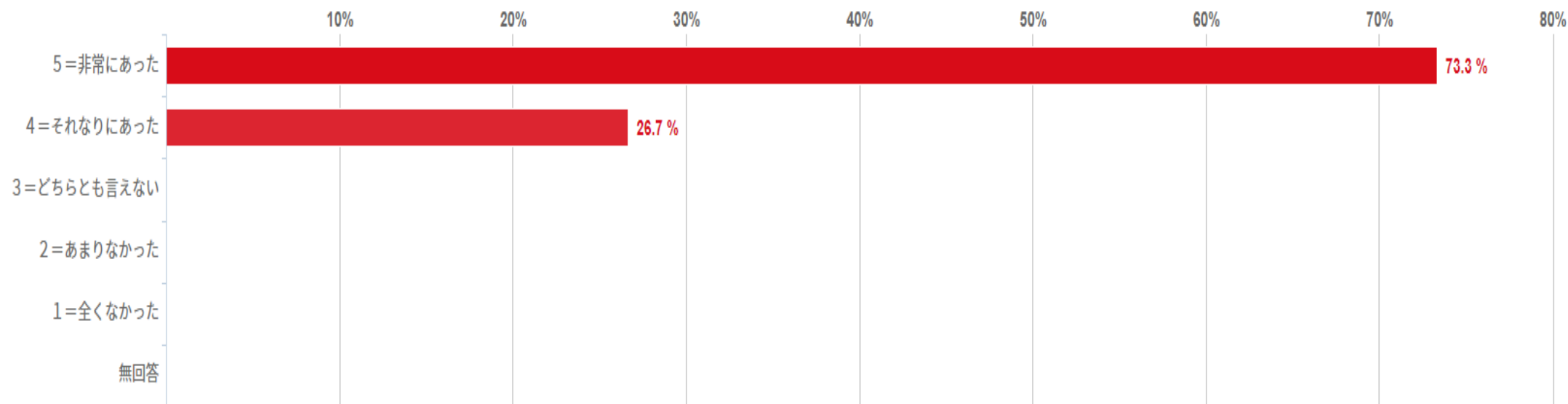


### <参加者アンケート抜粋>

- ・今までは遠い存在だと思っていた社会課題が、実は身近なものなのだと感じるようになった
- ・自分の知らない社会課題がまだまだ世の中には沢山あり、学びを続けていきたいと思った
- ・国際協力の分野は自分には遠いものだと思っていたが、自分にも出来ることがあることを知って行動していきたいと思った

## 2-4. (参考) 参加者アンケート結果④

【プログラム参加者との対話や交流を通じて、自身の中で新たな気付きや学びはあったか？】



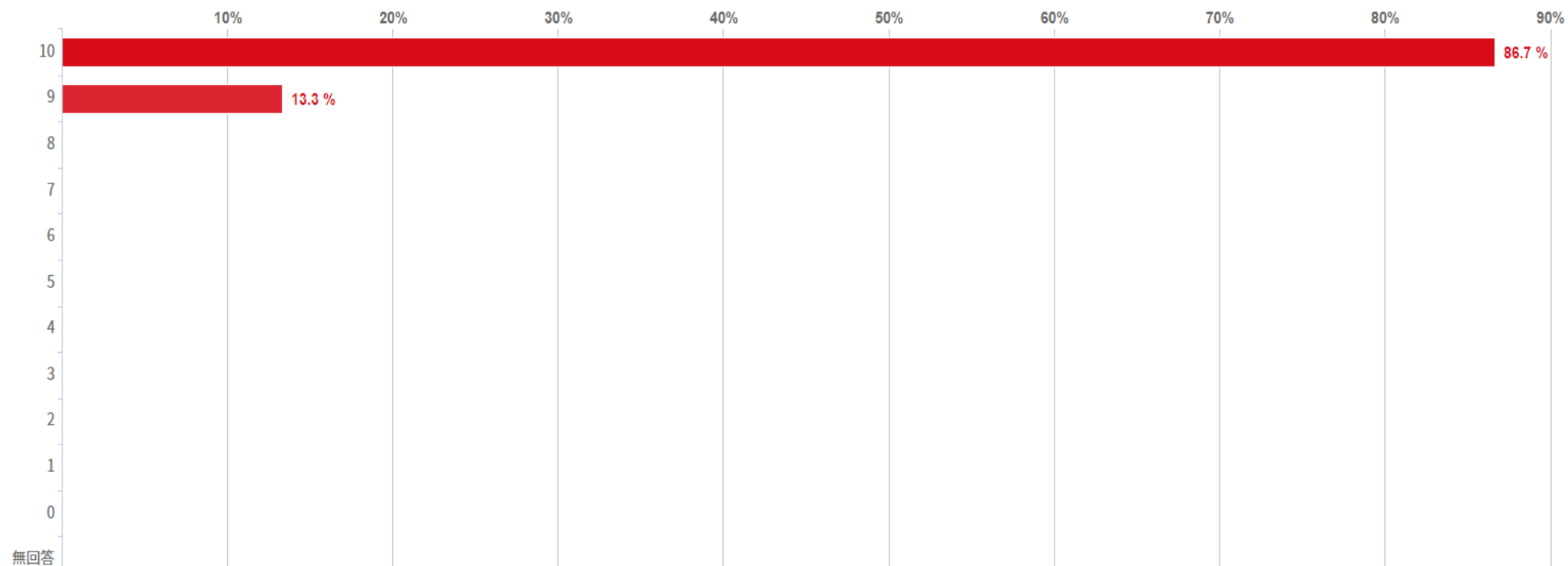
### <参加者アンケート抜粋>

- 自分がどのような人間なのか再発見ができた。色々な価値観や考え方を知ることができ、自分の世界を広げることができた
- 学校外の同年代と友達になることはほぼ初めてだったので、その経験自体が新鮮だった。自分も負けてられないと奮い立たされた
- 自分の強み、個性を感じられたのが良かった



## 2-4. (参考) 参加者アンケート結果⑤

【プログラムへの参加をあなたの友達にどの程度薦めたいか？（0~10の11段階から選択）】



### <参加者アンケート抜粋>

- 一つのテーマに縛られていないからこそ、今まで興味をあまり持ってこなかった人でも飛び込める環境だと感じるから
- 全国の様々な地域に仲間ができ、多様な価値観に触れることができるから。同じ学校の子としか関わりのない友人に強く勧めたい
- 将来のキャリア形成にとってとても参考になったから

## 3-1. プログラムの実証成果

### 検証項目1：

- ・ 実際にどれだけの学生を集客することができるか？（特に地方の中高生はどこまで反応してくれるか）

### 検証結果：

- ・ 下記の告知方法を実施し、上限30名に対して**全国から54名の応募者**を得た

### 【告知方法】

- ・ クロスフィールズHP上でのLPの掲載、配布用チラシの作成・配布
- ・ プレスリリースの配信（PV数1,675、転載サイト数 21）
- ・ メディア掲載（日本教育新聞、Works等）
- ・ Facebook広告の利用
- ・ 繋がりのある学校、教育機関、教育関係者への情報展開
- ・ 生徒・保護者・教育関係者をターゲットとした集客イベント（11/24）の実施

### 【応募者属性】

- ・ 私立33：公立21（計54名）
- ・ 都内在住11：その他43（福島・京都・宮崎・福岡・沖縄等）

### 【サマリー】

- ・ オンラインを主体とした告知を通して、都市部以外の地方の高校生からも広く募集を得ることができた
- ・ 当初30名程度の応募数を見込んでいたが、見込み以上の応募を得た
- ・ 「学校の先生からの紹介」が応募経路全体の約40%を占め、先生への効果的なアプローチは今後検証したい

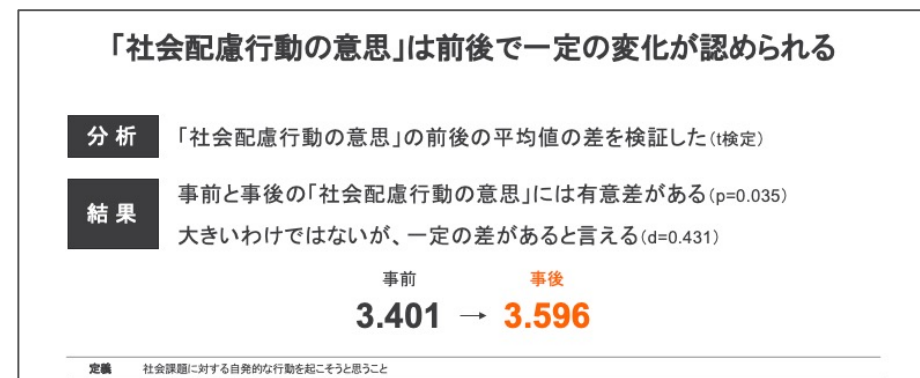
## 3-1. プログラムの実証成果

### 検証項目2：

- ・ オンラインを主体とした短期のプログラムで、どこまで社会課題の自分事化を促すことができるか？
- ・ グローバルな社会課題に対して実際に行動を起こすか？

### 検証結果：

- ・ 参加者のプログラム参加前後のアンケート分析から、プログラムへの参加によって「社会課題の一部として自分を見なす」の項目が参加後に大きく高まっていた
- ・ また「社会課題に対する自発的な行動を起こそうと思う」の項目が、参加後に高まっていた



(社会課題の自分事化アンケート分析結果より抜粋)

### 【サマリー】

- ・ オンライン主体の今回の短期プログラムが、社会課題の自分事化や行動への意思の高まりに効果があったと言える
- ・ メンターによる伴走期間の長期化や海外渡航の組み込む等による効果は今後、検証をしたい

## 3-1. プログラムの実証成果

### 検証項目3：

- ・ 参加した学生たちの間で、プログラム後も継続する仲間としてのコミュニティは形成されるか？

### 検証結果：

- ・ オンライン主体ながらも、プログラム中のグループワークや参加者間の対話を重視することで、参加者間の繋がりを築くことができた。
- ・ LINEグループを活用したコミュニケーションの場を提供。参加者間の情報共有の場としてプログラム後も活用されている。

### <アンケート抜粋>

- ・ 最高のメンバーは本当に大切な存在で、楽しいことも考えることも全て全力でできたことを嬉しく思います。1期生として胸を張ってみんなと会えるようにこれからもっと もっと頑張っていきます。
- ・ クロスブリッジでできた仲間とは将来でも仲良くし意見交換などができれば良いと思います

### 【サマリー】

- ・ オンラインを主体としても、繋がりを生み出すコンテンツや仕組みの工夫でコミュニティは形成することができる。
- ・ 一方で、この熱量やコミュニティを「継続」させる施策は引き続き模索していく

## 3-2. 実証プログラムから得られた探究学習の学びの最大化に必要な要素

### 要素1

- **高校生が自己開示しやすい環境構築**

→参加者間の相互理解の促進や運営側ファシリテーションの工夫による、プログラム実施期間中における心理的安全性の構築が重要となる。  
これを担保できることで参加者の自己開示が高まり、より深い内省と対話を通じた成長を期待することができる

### 要素2

- **ゲスト講師への「共感」を起点とした学びのインプット**

→ゲスト講師が等身大のライフジャーニー（自身が学生時代に辿った悩みや葛藤等）をシェアすることで、参加者が共感し「自分もそうなれるかもしれない」と自信を持ったり、可能性を広げることが可能

### 要素3

- **対話を通じた気付きや学びの深耕**

→参加者のリアルな悩みや疑問をファシリテーター並びにメンターが尊重し、丁寧に対話を重ねることで、参加者の気付きや学びの深化を生み出すことができる

## 4-1. 自走に向けたプランや、示唆

### 検証項目：

- 本取り組みに関心を持ち、寄付者として応援してくれる篤志家や外部機関は獲得できるか？

### 検討の結果得られた示唆：

- 有識者等へのヒアリングを通じ、次年度以降のプログラム実施に向けて以下のことが分かった
  - ✓ 本プログラムの一部費用を大口寄付（一口50-100万円程度）で調達できる可能性は十分にある
  - ✓ 対象としては、IPO後の若手起業家などの篤志家からの個人寄付、あるいは法人寄付が有力である
  - ✓ 寄付者への寄付動機を高めるために、メンターやプログラム企画者としてプログラムに一部巻き込む形が有効
- 来年度以降の自走に向けては、以下の3つの資金を組み合わせることで持続的な実施が可能となる
  - ✓ 所得水準に応じた一部受益者による費用負担  
（参加者アンケートでは「有償でも参加したい」が73.3%）
  - ✓ 一口50-100万円程度での寄付（法人及び個人）による収入獲得
  - ✓ 行政からの補助金の獲得（本資金の割合は徐々に下げていくことを想定）

## 4-1. 自走に向けたプランや、示唆

### 検証項目：

- 本取り組みにより中長期的に裨益するJICAやNGOなどの関係機関を出口として巻き込めるか？

### 検討の結果得られた示唆：

- キャリアセッションにてJICA職員をゲスト講師として招致したところ、参加者からは「先輩のお話を聞いて、自分が今後どのように自分の世界を広げていけば良いかアドバイスをもらえた」と言った感想も出ているなど、本プログラムは若者層の具体的なキャリア先のイメージアップに繋がる活動であることが実証された。そのため、JICAやNGOなどを卒業生の就職先として繋げていくなど、将来のキャリア候補としての接続可能性を引き続き模索していきたい
- 一方で、採用支援によってJICAやNGOからの資金提供が見込めるという可能性は低いという見立てである。自走に向けては、国際協力分野の人材育成などの名目で助成金や補助金を獲得することなどが現実的か

## 4-2. 普及に向けたプランや、示唆

### 普及に向けて

- クロスフィールズとしては、本プログラムを本年度程度の規模で継続的に実施して行く道を模索したい。一方で、以下のような施策を通じて外部発信や公教育との接続をより強化していくことで、本プログラムでの学びを社会に広く普及していくことを目指したい
  - ✓ 令和4年度のプログラムで制作した紹介動画を活用したPR活動の強化
  - ✓ Web、SNS、オンライン広告を活用した本プログラムの広報
  - ✓ 教育委員会・自治体組織、教員、保護者への広報・企画への巻き込み
  - ✓ 1期生を巻き込んだ潜在参加者層へのアプローチ、イベントの開催

### 探究(/体験)格差の課題への対応

- 昨今さらに顕在化してきている探究(/体験)格差への対応として、本プログラムの実施にあたっては以下の2つの観点に特に留意して今後事業を進めていく
  - ✓ 参加ハードルを下げる応募のあり方・仕組みの構築（より探究の入り口にいる層へのリーチの模索）
  - ✓ 受益者規模の拡大：
    - 一部授業のブロードキャスト配信による、価値提供者の増加
    - 参加者属性の多様化（外国籍の参加者を入れる等）による学びの質の向上